

防災新聞

災害を
生き抜くための
挑戦

迫りくる濁流に、逃げ惑う人々。まちを飲み込むように突き進む津波。5年前、テレビや新聞で報道された東日本大震災の情景は、あまりにも凄惨で直視できなかった……。だが、これは遠い異国で起こった出来事ではない。今世紀前半にも発生する恐れがある南海トラフ巨大地震。近年頻発する大水害。今、私たちは何を考え、何を準備すべきか。さまざまな方面で取り組まれている「災害を生き抜くための挑戦」を追った。

難しい局面を考え、災害に備える

大阪大学防災教育授業を開催



クロスロードに取り組む児童＝津乃峰小学校

阿南市と大阪大学との連携による防災教育授業が伊島、津乃峰、橋、見能林小学校で行われ、ゲームを通じて生活防災の大切さを学びました。授業は人と防災未来センター研究員の石原凌河さん（28歳）の進行で、「クロスロード」と呼ばれる防災ゲームを体験。災害時の判断が難しい局面を想定し、「YES」か「NO」かを選択するゲームで、「地震が起こった時、お父さんが近所の住民を助けに行くことを賛成するか」、「被災した時、避難所に家族同然の飼い犬を連れて行くか」といった問いに、児童たちはそれぞれの意見を出し合いました。

石原さんは、災害時の答えのない問題に直面した時の判断力は、普段の生活で養われると説きます。「まずはしっかりと自分の考えを持つことが大切です。いろんな考え方があることを尊重して、どうしたらうまくいくかを考えてください」と語りかけました。

地域の防災リーダーを養成



地図を見ながら対応策を考える＝市役所

巨大地震や津波の被害を予想し、住民自らがどのような

行動をすれば被害が少なくなるかを図上訓練する「DIGファシリテーター養成講座in阿南市」（国土交通省四国地方整備局主催）が、1月24日に市役所で開催されました。講師で常葉大学社会環境学部准教授の小村隆史さん指導のもと、35人の参加者は実際の地図を見ながら、予想される被害や津波からの避難方法などについて、熱心に確認していました。

徳島弁護士会と「災害時の支援協定」を締結

大規模災害時における住民等に対する法的な支援体制の構築を図るため、阿南市は徳島弁護士会との間で、「大規模災害時における相談業務の支援に関する協定」を締結しました（2月12日）。支援の内

容は、大規模災害時の無料の相談業務の実施や、平時における職員・住民等を対象にした研修など連携の充実です。



協定を締結した岩浅市長と徳島弁護士会の上地会長＝市役所

災害医療訓練を実施

トリアージ訓練など、大規模災害時を想定

南海トラフ巨大地震が発生し多数の傷病者が出ていることを想定した「平成27年度南部1圏域災害医療訓練」が、2月7日に阿南医師会中央病院で実施され約100人が参加しました。訓練では、市災害対策本部が設置されたあと、医療救護所を開設し傷病者を受け入れ、救護所や中央病院では傷病者に対して、医師や看護師等で構成される医師班がトリアージ訓練を行いました。トリアージとは、傷病者



トリアージを行う医師や看護師＝中央病院

の重症度を判別し、トリアージタグと呼ばれるカードを症状別に色分けして治療の優先度を定めることです。本訓練は、徳島県が主催し、阿南医師会中央病院や阿南市医師会、阿南市、市消防本部などが参加しました。徳島県危機管理副部長の石本寛子さんは、「発災時の各機関の連携体制の確認と情報伝達など、本部運営の強化を目的に開催しました」と話していました。

防災拠点が完成 津乃峰総合センター



地域の防災拠点となる津乃峰総合センターが、津乃峰町長浜に完成しました。本施設は見能林公民館津乃峰分館や阿南市消防団見能林分団第2班詰所、学童保育施設などを併せ持つ複合施設で、鉄筋コンクリート造4階建てです。災害時には1次、2次避難

所となり、直接4階屋上への避難を可能とした津波避難ビルとしての機能を備えていて、4階屋上に備蓄倉庫を配置しています。また、平時には地域住民の生涯学習の場や防災まちづくりの拠点として利用され、3月1日から運用が開始されます。

共に生きる

橘町地域自主防災会

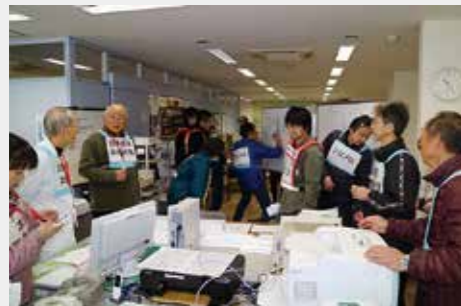
橘町は沿岸部に位置し、津波や高潮に対する危機感が強い。町では、阪神淡路大震災を契機として、平成15年に自主防災会が立ち上がった。現在は、橘町全域約2700人が加入している。実効的な自主防災活動を繰り広げている。

中でも避難所運営のほか、独居高齢者、障がい者など災害弱者の救助方法について、会長で知恵を出し合っている。会長の計盛幸雄さん（70歳）は、「後世のために、今できることを精一杯やっておきたいんです。特に山間地域をはじめとする他地域の自主防災会や婦人会、公民館との協力体制を作りたいですね」と話す。計盛さん自身得意の

たたら音頭や阿波踊りを生かしたネットワーク作りにも余念がない。「呼ばれたら、どこへでも行きますよ。町を守るために」と笑顔をのぞかせた。



津波避難訓練のようす＝橘地区防災公園



本部運営訓練のようす＝中央病院

昭和南海地震体験者に学ぶ

鳴門教育大の学生が防災学習

津波減災に関する知識の向上を図ろうと、昨年12月12日に鳴門教育大学の学生ら約80人が、福井町で昭和南海地震の津波体験談を聞くなど防災実習を行いました。



体験者から当時のようすを聞く学生＝福井町

昭和21年に発生した昭和南海地震の津波被災地を訪れた学生に、体験者4人が当時のようすを語りました。島太一さん（81歳）は、「津波の力は強く、足元の水位でも体をもっていかれそうになった。何を聞いても高い所へ逃げなければならぬ」と語りました。参加者は、熱心に体験者の声に耳を傾けました。大田貴之さん（同大学2年）は、「災害時には日頃の準備が大切ということを確認しました。学んだことを教訓としたいです」と話していました。また、トランシーバーによる伝達訓練のほか、県とくしまゼロ作戦課が推進する「ほしいものリスト」や「コールセンター」の実証訓練も行われました。実習は、同大学や県南部総合県民局津波減災部、福井町自主防災連絡会が開催しました。

被災地で大きな力を発揮 市社協が「災害ボランティア養成講座」を開催

「災害ボランティア養成講座」が、昨年12月13日、2月14日にひまわり会館で行われ、高校生から70歳の方まで27人が参加しました。本講座は、災害に備えて、災害ボランティアの養成と登録を目的としたもので、市社会福祉協議会が開催。参加者は災害ボランティアについて講義を受け、ボランティアセンターの開設訓練や応急対応などを行いました。廣瀬悠気さん（新野高校2年）



養成講座のようす＝ひまわり会館

は、「人を助けるための技術を勉強したい」と思い、参加しました。学んだことを災害時に実践したいです」と話していました。

津乃峰小学校が県表彰を受賞



表彰式のようす＝徳島市のあわぎんホール

防災教育や防災活動について特に優れた学校に対して贈られる平成27年度「徳島県まなぼろさい活動賞」を津乃峰小学校が受賞し、1月6日に表彰式が行われました。バスを利用した避難所体験や実効性のある防災訓練を工夫して実施。「防災歴史学習」「保育園への出前授業」など多岐にわたる防災教育や啓発活動が高く評価されました。

人

防災に女性の視点を

小川美紀さん
（60歳・那賀川町）



「日本女性会議（男女共同参画）2013あなん」第2分科会 防災部会（平成25年開催）で、女性の視点から避難所運営について問題提起した小川さん。講演は、参加者の心をうち、活発な意見討論もなされた。防災活動に携わるきっかけは東日本大震災。3・11は、ちょうど亡き夫の10年目の命日にあたる。「夫が私に何かメッセージを送っているのでは

は」と感じたという。それを機に命を守る防災士の資格を取得し、地域の防災リーダーとして防災訓練参加への積極的な声掛けや、女性ならではの細かい活動を行っている。「災害時には日ごろからの交流、コミュニケーションがものをいうんです。共同での活動は、住みよい地域づくりにもつながっていきます」と力強く語った。

心肺蘇生法で助かる命

桑野町で訓練

緊急時に命を助ける心肺蘇生法やAEDの操作方法などを習得する防災訓練（桑野町自主防災会連合会主催）が、2月13日に桑野公民館で開催され約100人が参加しました。参加者は、市消防職員から操作方法を学び、実際に機器を使って習得しました。訓練に参加した棚野幸男さん（76歳）は、「心肺蘇生法を習得できました。いざという時

には使いたいです」と話していました。



心肺蘇生法を学ぶ参加者＝桑野公民館

過去の災害に学ぶ

阿南市人権教育・啓発研究講座が、2月3日、10日に行われ、防災という観点から人権を学ぼうと20人が参加しました。講師の市防災対策課

防災啓発指導員の平岡裕文さんが、過去の水害や火災など災害についてわかりやすく解説。平岡さんは、「災害経験は貴重な教訓を与えてくれます。学び生かしていきます」と語りかけました。里村典子さん（津乃峰町）は、「地域での支援活動に役立てていきたくて話しています」と話していました。



研究講座のようす＝市役所

阿南南ロータリークラブ 南海トラフ巨大地震対策プロジェクト

阿南南ロータリークラブは、地域に南海トラフ巨大地震による津波等の被害が予想される地域が含まれることから、平成18年に防災委員会を設立し、積極的な活動を行っている。「防災啓発は子どもの頃から」と市内小・中学校での防災啓発標語・ポスターコンクールの実施のほか、標高標示板の設置や橋地区防災公園へのいす寄贈など活動は多岐にわたる。会員の皆さんは、「これからも予防、事前対策に重点を置いた取組を行い、少しでも被災者と被害の減少に貢献したいです」と意気込んでいる。

第6回防災啓発標語・ポスターコンクールの展示

日時 3月2日(水)～30日(水)
8:30～17:00 (30日は15:00まで)
場所 ひまわり会館
作品展示 防災啓発標語 (23点)
防災啓発ポスター (136点)
阿南南ロータリークラブ事務局
(☎27-2027 ホテル龍宮内)へ

● 防災標語最優秀作品 ●

守ろうよ 物より先に 我が命
新野中学校1年 柏木裕大さん
その命 守るためにも 日頃の備え
津乃峰小学校6年 赤澤千幸さん
知っている 今いる所の ひなん場所
椿小学校3年 長坂秀直さん

● 防災ポスター最優秀作品 ●



津乃峰小学校2年 谷本莉乃さん



阿南第二中学校2年 外磯初希さん



長生小学校6年 渡部沙織さん